

われらの道



令和5年12月23日発行

文責；附属中 萩原喜成

中等教育研究会

今年度の中等教育研究会は、4年ぶりの参集実施となりました。授業を公開するにあたり、生徒はもちろん、教師自身も参観者も学びのある授業になるように準備



し、日々取り組んでいます。また、直接授業を見ていただくことは、教師にとっても生徒にとっても、普段とは違う緊張感の中での授業となります。だからこそ、その経験が授業力の向上につながり、授業中の主体性や創造性につながるのだと思います。日常的な取組の大切さを再認識する、学びの多い1日となりました。

生徒会役員選挙

令和6年度の生徒会役員選挙が行われました。2学年の各クラスでは、選挙運動のスタートから立会演説会・投開票まで、団結して取り組む姿が見られました。学年全体で新生徒会本部を支え、附属中学校の日常生活をよりよくしたい思いがあふれていました。



アフターコロナの取組が求められた今年度の生徒会活動は、ただコロナ

前に戻すだけの活動ではなく、コロナ前とコロナ禍の活動それぞれの良さを取り入れた活動が要求され、模索しながらの取組でした。そんな中でも、現生徒会役員が中心となって、附属中の新たな生徒会活動の原型を創り上げてくれました。

附属中学校の新たな伝統にできるかは、新生徒会役員とそれを支える1、2年生にかかっています。新生徒会役員の活躍とリーダーシップに期待します。



大学卒論・修論のための検証授業

毎年12月になると、山梨大学の教育学部4年生や教職大学院2年生が、卒論や修論をまとめるための検証授業を附属中で行います。今年、学部4年生の3人と大学院2年生の1人が2年生の数学の授業を行いました。



全員が教員採用試験に合格しており、来年度から公立

学校の教師として働くことになっています。大学や大学院で研究してきたことについて実際に授業を行って検証するので、授業内容については、考え、悩み、話し合いをしながら進めたり、実際に立体を作る作業をしたりするととても面白い授業でした。附属中



にはたくさんの方が来校して、授業を見学したり、実際に授業をしたりします。一緒に学校生活を送っていない外部の方がかわり、様々な視点から意見をもらうことは、私たちにとっても視野が広がり、考えが深まる絶好の機会です。来客の多い本校は、授業に集中できないなどのデメリットもありますが、それ以上にたくさんの学びが得られる学校生活ではないでしょうか。

今年のまとめと新年に向けて

令和5年が終わります。皆さんにとって今年はどうな1年だったでしょうか。今年、コロナの5類移行に伴い、様々な活動が再開されるようになりました。再開されると、人とのかわりが増え、それに伴い、自分の思い通りにならないことも多くなったことだと思います。ときには友達と意見が合わずトラブルもあったことでしょう。



そんなとき、みなさんはどう行動しますか。1年をしめくくる時期であり、初心に帰る時期でもあるので、振り返ったことを今後の行動に活かしてほしいと思います。